

【参考】マクロミル独自の短時間回答者削除機能の効果検証

今回、マクロミルが新たに開発した短時間回答者削除機能(独自ロジック)の効果調べるために、検証調査(「旅行に関するアンケート」)を実施し、一般的な短時間削除結果(一般ロジック)で削除した場合との比較検証を行いました。

調査名 : 旅行に関するアンケート
 調査実施日 : 2011/6/10(金)~6/12(日)
 地域 : 全国 性年代均等割付
 回収数 : 10,600ss
 質問項目 : 過去3年以内の国内/海外旅行経験、旅行先・活動内容、今夏の旅行予定、旅行に対する関与など全13問

Point 1. 削除後のサンプル構成

一般ロジックでは、単純に回答所要時間が短い人が全回答データの中から削除されていきます。そのため、提示される質問数が最も少ない「国内も海外も旅行したことがない(どちらもなし)」と回答した人たちが優先的に削除されてしまいます。

一方、マクロミルの独自ロジックでは、「国内旅行と海外旅行をした人」「国内旅行をした人のみ」「海外旅行をした人」「どちらもなし」と一人ひとりの質問パターンごとに短時間回答者を削除する仕組みになっているため、短時間回答者を削除した後も、アンケート回収時点のサンプル構成に近い形に保つことができます(表1)。

【表1】一般ロジックと独自ロジックとの削除後のサンプル構成の違い

	a 回収全サンプル	b 一般ロジック	c マクロミル独自ロジック
国内&海外(13問)	22.4 %	23.0 %	22.7 %
国内のみ(9問)	58.1 %	59.7 %	58.6 %
海外のみ(9問)	3.4 %	3.4 %	3.4 %
どちらもなし(5問)	16.2 %	13.9 %	15.4 %
サンプル数	10,600	0,300	10,300

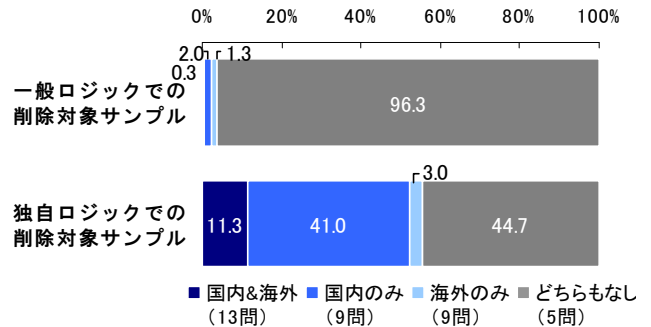
提示質問数が少ない人が多く削除されてしまう

Point 2. 削除対象サンプルの回答パターン

今回の検証では、一般的なロジックと独自ロジックの違いを把握するために、回収全サンプルから同数のサンプルを削除しました。

その結果、削除対象となるサンプル構成に明らかな違いが見られました。一般的なロジックでは明らかに回答する質問数が少ない回答者(5問の提示質問数)しか削除できていないのに対し、独自ロジックでは、それぞれの回答パターンごとに短時間で回答している人を検出して、削除することができます(図2)。

【図2】短時間削除の対象となったサンプルの回答パターン

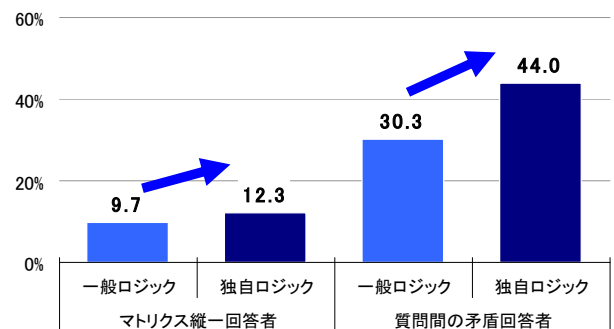


Point 3. 不整合回答者の検出力

マクロミル独自ロジックを用いると、マトリクス質問ですべて同じ番号を回答する人(縦一回答者)や回答内容に矛盾がある不整合回答者の割合が一般的なロジックよりも多く検出されるようになりました(図3)。独自ロジックでは、質問数が多い人の中からもいい加減な回答者を削除することができるようになったからです。

このように、今回、マクロミルが新たに開発した短時間回答削除機能がすべてのアンケートに標準実装されることによって、サンプル構成のバランスだけでなく、不正な回答者の検出力が向上し、より質の高い回答データをご提供できるようになりました。

【図3】短時間回答削除者に含まれる不整合回答者の検出率



マクロミルは今後も調査回答品質の向上へ向けて努力してまいります。



株式会社 マクロミル 証券コード: 東証1部 9790

【本社】東京都港区港南2-16-1 品川イーストワンタワー 11F 〒108-0075 TEL: 03-6716-0710 FAX: 03-6716-0711
 【関西支店】大阪府大阪市北区梅田3-3-10 梅田ダイビル 9F 〒530-0001 TEL: 06-6133-3770 FAX: 06-6133-3771

www.macromill.com

お問い合わせは、
フリーコール

0120-096-371

support@macromill.com